

伊藤ハムグループ

# 2012年 CSR報告書

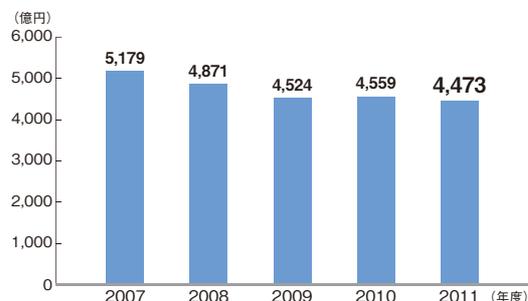
Ito Ham Group Corporate Social Responsibility Report



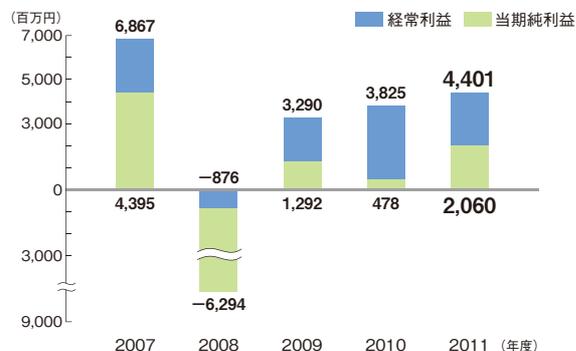
会社名	伊藤ハム株式会社
設立	1948年(昭和23年)
創業	1928年(昭和3年)
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号
代表者	代表取締役社長 堀尾 守
資本金	284億2,700万円
売上高	4,473億9,900万円(連結)
連結対象会社	連結子会社 30社 持分法適用関連会社 11社
従業員数	1,888人(連結:5,308人)
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食肉加工品の製造および販売</li> <li>● 食肉の加工および販売</li> <li>● 調理加工食品、惣菜類の製造および販売 など</li> </ul>

## 業績(連結)

### ■ 売上高の推移



### ■ 経常利益/当期純利益の推移



## 「2012年 CSR報告書」について

### 編集方針

伊藤ハムでは2000年から「環境報告書」を発行し、今年で13回目の発行となります。2005年からは社会的側面の記述を充実させて「社会・環境報告書」として発行し、2008年から「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility)に対する弊社の取り組みを皆様にご報告する内容に改めて、タイトルを「CSR報告書」としました。

今回の報告書では、2011年度のCSR活動の報告を主な内容として、「お客様」「株主・投資家様」「地域社会」「従業員」など多様なステークホルダーの皆様に対して、分かりやすくお伝えするために、より簡潔な表現、親しみやすいデザインを心がけました。

なお、今回の報告書は冊子を廃止、Webのみの報告とし、サイトごとの詳細データ等については、ダイジェスト版(HTML)に掲載しています。

■伊藤ハムホームページ:<http://www.itoham.co.jp>

### 対象範囲など

#### ◇報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。

#### ◇報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

#### ◇対象期間

基本的には2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2011年度以前、以降についても報告しています。

#### ◇参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」  
GRI「サステナビリティレポートガイドライン 2006」

※「環境保全活動」の事業所写真は、原則として伊藤ハム(株)のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。

## I N D E X

会社概要	01
「2012年 CSR報告書」について・INDEX	02

### トップコミットメント

ごあいさつ	03
-------	----

### マネジメント

社是／経営方針	05
コンプライアンス	06

### お客様とともに

安全・安心への取り組み	09
お客様の声の反映	10
食育	11
ソーシャルネットワーク活動	12

### 株主・投資家様とともに

企業情報開示・IR活動	13
開かれた株主総会を目指して	13
株主優待制度	13

### 社会貢献活動

社会貢献活動 理念／活動方針	14
地域社会貢献活動・ユニセフ支援活動	15
自然環境保護活動・ボランティア支援活動	16
東北地域炊き出し活動	17

### 従業員とともに

人材の育成・雇用	18
労働安全衛生	19
健康管理	19

### 環境保全活動

環境宣言(基本理念／行動指針)	20
環境負荷の全体像	21
第4次中期環境目標の取り組み結果と自己評価	22
2011年度の活動ハイライト	24
環境マネジメント	25
環境負荷低減の取り組み	27
生物多様性保存への取り組み	31
環境情報開示	32
従業員教育・地域とのコミュニケーション	32
環境会計	33
環境データ	34
環境保全活動の沿革	38

ごあいさつ

## 「食」を担う企業として 社会から信頼され続けるために

代表取締役社長

堀尾 守



昨年の東日本大震災で被災された方々にあらためて心よりお見舞いを申し上げます。

被災地の一日も早い復興を祈念すると同時に、今後も企業として被災地の方々への支援活動をできる限り継続してまいります。

### 「コンプライアンス」は最重要

伊藤ハムグループは、創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」の社是を掲げ、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工品をお届けし、食生活の向上に貢献してまいりました。また、「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」という経営ビジョンのもと、「食」を担う企業として社会から信頼され続けるために、コンプライアンス体制をより充実させて経営品質を高めるとともに、地球環境への配慮、社会貢献活動や食育活動などの分野においても、積極的に活動しております。

伊藤ハムグループはCSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しておりますが、これに加え第三者の目で

CSR体制をチェックし、その結果を取締役に提言する「CSR委員会」、各部署でのコンプライアンスに関する課題や問題をグループ全社で共有し、改善策を定める「コンプライアンス責任者会議」、明日を担う若手社員の中からコンプライアンス委員を任命し、担当職域を定め職場に根付いたコンプライアンス推進活動をする「コンプライアンス委員制度」、業務に関連する法令の認識・周知不足から起こる違反を防ぐため「リーガルリスクマネジメントシステム」の運用など、コンプライアンス体制のさらなる強化、充実を図っております。

特に、「コンプライアンス委員制度」については、2012年度は委員を192名から312名に増員し、伊藤ハムグループ全社でコンプライアンス体制を強化しました。

また、伊藤ハムグループ全体のコンプライアンスの徹底には、従業員全員の意識と知識の向上が不可欠との観点から、全従業員を対象としたコンプライアンス教育プログラムを策定し、2011年度はのべ297回の従業員教育を実施して、コンプライアンスマインドの浸透を図っております。

## 「食」を担う企業だからこそできる 「食育活動」

「食育活動」は食品企業だからこそできる社会貢献活動の一つであり、伊藤ハムグループのCSR活動の重要な一環であると考えております。その具現化のため「伝えていきたい食べるよろこび」を食育活動のメインメッセージとして「食育」に関するさまざまな活動に取り組んでおります。2011年度は、手作りウインナー教室、ウインナーの飾り切り教室を中心に活動し、主としてお客様を対象としてウインナーの作り方の体験や、お弁当をもっと楽しくするお手伝いをさせていただきました。今後も継続して活動を行ってまいります。

## ボランティア活動を通じた「社会貢献」

伊藤ハムグループは企業が地域社会に貢献するためには、従業員の地域社会への帰属意識と地域社会活動に対する積極的な参画意識を高めることが重要であると認識しております。そこで、従業員の社会貢献活動への積極的な参加を促すことを目的として、ボランティア体験学習を開催するとともに、ボランティア休暇制度や社会貢献表彰制度を充実させ、従業員のボランティア活動への参画意識の高揚を図っております。

全国各地のクリーンアップ清掃活動に参加するとともに、「こうべ森の学校」や「高尾の森づくりの会」の活動に参加して間伐・植樹作業を実施するなど、自然環境保護活動も継続して実施しております。

2011年度のスマイルキャラバン号による東北地域での炊き出し活動は、少しでも被災された地元の皆様のお役に立ちたいという従業員の想いから立ち上げた活動です。2011年度は東北各地で56回の炊き出し活動を実施いたしました。

一方、開発途上国の子どもたちの支援を行う趣旨に賛同し、2008年度よりユニセフとタイアップして弊社製品の販売数量に応じユニセフを通じて寄付を行う「タンザニア栄養事業支援」を継続しております。

## 環境負荷を低減するために

継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を行うことは、伊藤ハムグループが企業の社会的責任を果たす基本姿勢と位置づけ、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出量削減など、さまざまな環境負荷低減活動に積極的に取り組むとともに、全生産施設を対象として、中期環境目標を定め、達成に向け日々努力を重ねております。

2011年度も高効率タイプのボイラーおよび冷凍機への更新など施設に関わる取り組みや、クールビズ、ウォームビズなどの省エネルギー対策を実施しました。また、新たな取り組みとして、中元、歳暮期にお得意様の店頭に陳列するギフト用実物サンプルに替わって、商品1点1点を特殊なカメラで撮影、製版技術を駆使して作成したリアルイミテーションを導入し、実物の商品を使ったサンプル数を減らし廃棄物削減対策の一助としました。

今後も目標達成に向けて、さまざまな環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。

## 社会から信頼され続けるために

社会性のない企業は存続し得ないという認識のもとで伊藤ハムグループが行っている社会貢献プログラムのいくつかをご紹介します。

伊藤ハムグループが真に社会から信頼され続けるために、社会貢献活動や食育活動、環境保全活動を継続することはもとより、多方面にわたってさまざまな課題にチャレンジし、全力でまい進いたします。

また、これらの活動につきましては、今後ともこの「CSR報告書」にて幅広く情報開示を行ってまいります。伊藤ハムグループの活動内容とその結果に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2012年9月

事業分野はもちろんのこと、コンプライアンス(企業倫理の遵守)の強化に取り組み、明るく元気いっぱいの輝く企業を目指します。

## 社 是 事業を通じて社会に奉仕する

### 経営方針

伊藤ハムグループは長期的な企業価値の向上を目指し、活力ある魅力的な企業、また、社会に貢献できる企業へ全社を挙げて取り組むことを基本方針としています。

#### 企業理念

#### 1. 使 命 (ミッション)

伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えてまいります。

#### 2. 経営姿勢

- コンプライアンス(企業倫理の遵守)を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、社会から信頼される企業を目指してまいります。
- お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けいたします。
- 環境にやさしい企業活動を推進いたします。
- 社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジする活力ある職場を目指します。

#### 3. 行動規範

- あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会良識に沿って行動します。
- 議論は自由闊達、且つ徹底的に行い、決めた事はすぐに実行し最後までやり遂げます。
- 慣習にとらわれず、常に新しい発想で、自主的に行動します。
- 「強く 正しく 逞しく」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

#### 経営ビジョン

#### アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる

伊藤ハムグループは、企業規模や利益の追求だけを目的とせず、日本をはじめとしたアジア全体で、最も安全で安心な商品を提供している企業であるという信頼を得ることを目指します。

#### 中期経営方針

#### 1. コンプライアンス体制の 更なる充実

- 引き続き体制の充実を図る。
- 業務執行に対する監督機能の一層の強化。
- 社外取締役の導入。
- 社会貢献活動にも引き続き注力。

#### 2. 人材の育成

- ジョブローテーション／チャレンジ制度の構築。
- 生産技術センターを設立し製造技術の伝承とレベルアップを図る。

#### 3. 営業力、生産力をはじめとする 現場力の強化

- 価値を生み出す現場の力の充実・強化。

#### 4. お客様目線での商品開発を 伴うマーケティング力強化

- 新しい価値創造。
- 商品開発／マーケティング部門への人材投入。
- 業務用商品の開発力・マーケティング力強化。

#### 5. コスト競争力の強化

- 経営資源をより効率的、効果的に使える強い筋肉質の企業体質へ。

# コンプライアンス

ステークホルダーの皆様からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行ううえで守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の向上の

ためには、企業倫理の高い公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス(企業倫理の遵守)の強化に取り組んでいます。

### コンプライアンスの意味と目的

#### ●コンプライアンスとは…

一般的には「法令遵守」を意味しますが、伊藤ハムグループでは「企業倫理の遵守」と定義します。

#### ●コンプライアンスの目的…

経営方針に沿って、会社および役員・従業員等が企業活動を円滑に行ううえで、遵守すべき普遍的な考え方を規定し、その実践によって企業価値の向上を目指すとともに社会的貢献に努め企業の永続性を図ることで

## 企業倫理規範(コンプライアンスの原則)

### 1.公正な行動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

### 2.倫理観と遵法の精神

常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

### 3.関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

### 4.法令違反の早期是正と厳正対処

業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。



コンプライアンス・ハンドブック

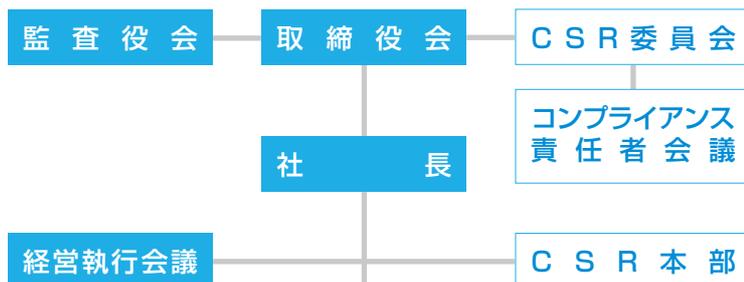
## 組織

伊藤ハムグループでは、CSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しています。

CSR本部の目的は、伊藤ハムグループの役員をはじめ、全従業員のコンプライアンスに対するさらなる意識向上、並びに実践の企業風土を徹底浸透させるとともに、内部監査体制の強化・拡充です。

本部長は「コンプライアンス違反行為に対しては社長代行として改善指示が出来る権限」を持ち、その責任は「監査等を通じた問題点の早期発見・社長及び取締役会への報告／現場への改善指示／是正プロセス及び結果の確認と社長及び取締役会への報告」となります。

#### 【CSR推進組織図】



#### 【推進活動内容に対する基本的な考え方】

- ・社会的な常識を正しく認識するための情報提供と指導
- ・社内の問題点を早期に発見し、改善につなげるための積極的な活動
- ・社内各事業本部(本部)機能、管理部門の連携
- ・特定の部署や個人が情報を囲い込むことがないよう、風通し良く開かれた組織風土、企業体質の確立
- ・社内外の声を真摯に聞く、開かれた姿勢
- ・マイナス情報を含めた積極的な社内外への情報発信による説明責任の履行

### CSR委員会とコンプライアンス責任者会議

#### CSR委員会

【役割】 第三者の目でCSR体制をチェックし、その結果を取締役会に提言します。



#### コンプライアンス責任者会議

【役割】 各部署での課題・問題を全社で共有します。



### コンプライアンスに関する規程の整備

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員に周知するためにコンプライアンスに関する規程の整備を進めています。

コンプライアンス推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
内部者取引管理規程	証券取引および関連法規に違反する内部者取引を未然に防止するために、役職員の職務に関して取得した未公表の内部情報(重要事実と同義)の管理、役職員の株式等の売買その他の取引および役職員の職務に際して遵守すべき基本的事項を定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。

### 情報セキュリティの維持・向上

従業員がITを利用するにあたっては、「伊藤ハムグループIT利用規則」を定め、ITの効果的活用を目指すとともに、法令・社内の諸規程および社会倫理に反する利用や、お客様を含めた一般社会に不利益を与える利用を厳しく禁じています。同時に、情報資産のセキュリティ確保および個人情報の保護といった社会的責任を果たすべく、インターネットに潜むサイバー攻撃などの脅威やモバイル機器の取扱いなど、情報資産にかかわるリスクを継続的に評価し、情報セキュリティの維持・向上に努めています。

### 従業員教育

従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識・関心を高め、行動に結びつけるために、CSR講習会、新入社員研修、階層別研修や部門研修、所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。



研修風景

### 適切な情報の開示および共有化

従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践するために、周知・啓発活動を行っています。効果を高めるために社内イントラネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。



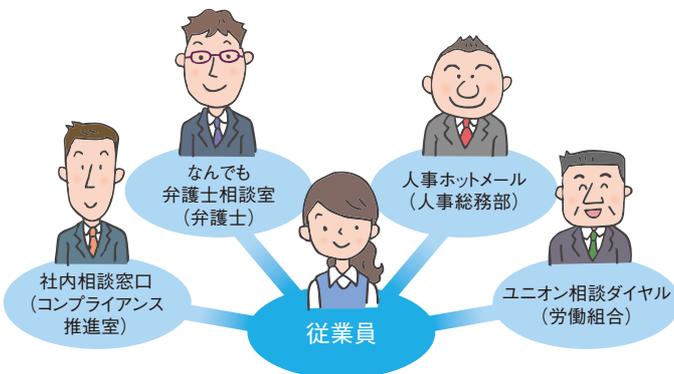
社内イントラネット



社内報「YAKUDO」

### 相談窓口の設置

違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱を見かけたり、疑問を感じた場合には、まず上司に報告することを基本としています。しかし、それが難しく従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。



また、社外からの窓口として、ホームページとお客様相談室(フリーダイヤル:0120-011186)を設置しています。



コンプライアンスカード

### コンプライアンスデー

従業員のコンプライアンス・マインドのさらなる浸透と定着を図るために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、コンプライアンス意識調査の実施やポスターの掲示を行っています。



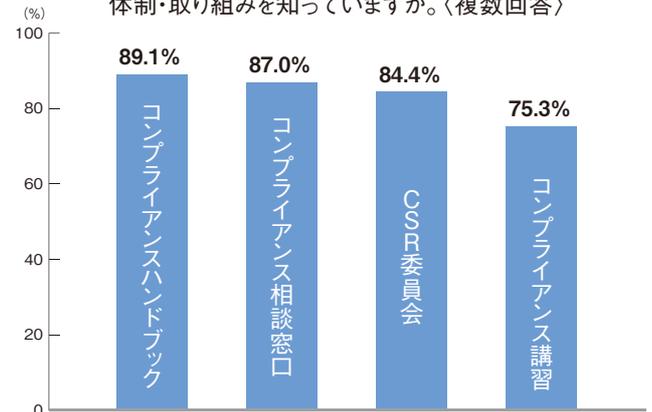
ポスター

### 意識調査の実施

コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげています。

【第10回コンプライアンス意識調査結果(正社員対象)】(抜粋)

●あなたは、次の伊藤ハムグループのコンプライアンスの体制・取り組みを知っていますか。(複数回答)



目的: コンプライアンスの浸透状況を把握し、今後の活動に生かすため  
 期間: 2011年9月1日～2011年9月24日  
 対象: 伊藤ハムグループに所属する役員、執行役員、社員合計4,431名

### コンプライアンス委員制度

職場に根付いたコンプライアンスの徹底を推進するために、コンプライアンス委員を任命し担当職域内のコンプライアンスに関する周知や従業員からの相談受付など、さまざまな活動を行っています。第一期目の委員任期満了にともない、2012年度は大幅な委員の改選が行われ、伊藤ハムグループ全体で312名の体制となりました。定期的にコンプライアンス委員ミーティングを実施し、相談対応で必要となる傾聴など、さらなるスキル向上を目指します。



コンプライアンス委員ミーティング

### リーガルリスクマネジメント

事業部門ごとに業務や取引に関連する法令を抽出し、当該法令の違反リスクとその防止策などを一覧化したリスト(「法令チェックリスト」)を作成、各事業部門でモニタリング活動を行い、業務が適切に運営されているかチェックしています。また、最新の法令情報を取得し「法令チェックリスト」を更新することで、職場レベルでの法令知識の向上を目指しています。

## A

一般的には「法令遵守」を意味しますが、伊藤ハムグループでは「企業倫理の遵守」と定義しています。コンプライアンスを最重要視し、一人ひとりが日常の活動をあらためて振り返り、正しい意思決定や行動を行えるような職場風土を醸成していきます。

消費者の皆様には「安全」で「安心」な商品をお届けし、食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えするために、さまざまな取り組みを行っています。

## 安全・安心への取り組み

### 牛肉のトレーサビリティ

お客様に安全とともに安心をお届けするために、「安全・安心システム(トレーサビリティシステム)」を導入し、牛肉のトレーサビリティ(生産・流通履歴の確保)に取り組んでいます。詳しくはホームページをご覧ください。



トレーサビリティのホームページ

「安全・安心システム(トレーサビリティシステム)について」ホームページ

<http://www.itoham.co.jp/farm/enzen/tracea/index.html>

### お客様の視点に立った食品表示への取り組み

食品表示は、お客様にとって非常に重要な情報です。伊藤ハムグループでは、生産・販売している各食品について、関係法規を遵守し、かつ、お客様にできるだけ分かりやすく表示するよう取り組んでいます。

近年、特に法的義務のある表示基準が複雑化し、さまざまな表示事項の追加、表示方法の改正が行われていることにかんがみ、CSR本部品質保証部では、社内の食品表示基準を整備し、表示勉強会を開催して社員の知識向上を図っています。

また、表示の法令遵守はもちろん、伊藤ハムブランドの商品パッケージの表示・デザインについては、定期的に営業部門、生産部門、商品開発部門、仕入れ部門、品質管理部門によるミーティングを行い、お客様からいただいた貴重なご意見をもとによりお客様の視点に立った表示・デザインへの改訂に努めています。

### ISO22000の取り組み

伊藤ハムグループでは、2005年12月にグループ会社であるサンキョーミート(株)有明ミート工場が食肉業界で初となるISO22000を認証取得したのをはじめ、食肉事業部門の全生産事業所が、ハム・ソーセージの生産工場ではグループ会社である筑紫ファクトリー(株)北九州工場がISO22000の認証を取得しました。ISO22000は、品質管理の国際規格であるISO9001をベースとして、工程管理にHACCP(総合衛生管理製造過程)を取り入れた食品安全に特化した国際規格です。



ISO22000適合証明書

### 品質保証監査

CSR本部品質保証部では、お客様に安全・安心な商品を提供するために、伊藤ハムグループの各施設が適正に運用されているか等について、定期的、臨時的な監査・点検を実施しています。

特に、ハム・ソーセージなどの食肉製品の主力生産工場については、監査員が常駐し、厚生労働省承認のHACCP(総合衛生管理製造過程)の基準で、適正に運用生産されているか等について、各工場の品質管理部門と連携して、監査・点検を実施しています。

また、従来より、伊藤ハムグループの各営業所・物流・販売店舗の監査、および社外協力工場についても、新規取引開始時の工場審査、取引開始後の定期監査等を実施し、各商品の品質・安全性を確認、検証しています。



品質保証監査



## お客様の声の反映

### もっとおいしくコミュニティ

「もっとおいしくコミュニティ」は、“お客様の視点からの自由な発想によるご意見”によって弊社商品をもっと良い商品にすることを目的として、2004年11月よりスタートしました。

メンバーの皆様には、グループインタビューやアンケート調査に参加していただき、そのご意見を商品の開発や改良のアイデアにつなげています。



「もっとおいしくコミュニティ」グループインタビュー

### お客様相談室

伊藤ハムグループお客様相談室では、お客様からのお問い合わせ・ご意見を、フリーダイヤル、ホームページ、お手紙などを通じて、いただいています。

特にお問い合わせには、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うことを心がけています。また、ご指摘いただいた内容については、関係部署と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

【お客様の声を生かすしくみ】



### お客様の声をもとに商品改善を具体化

お客様からお寄せいただいた商品についてのご意見・ご要望は、商品の改善・開発に役立つ伊藤ハムにとっての“宝物”です。

お客様相談室では、「お客様の声」を関係部署に伝え、伊藤ハムブランドの商品パッケージの表示・デザイン、形態の改善、開発に役立てています。

#### 改善事例

ラ・ピッツァシリーズで、「脱酸素剤とは知らず、ピザに振りかけて食べた」というお客様が結構多くおられました。

そこで開発部門で検証し、「おいしい召し上がり方」の掲載部分に脱酸素剤を取り除く絵を入れました。

#### 〈旧パッケージの「おいしい召し上がり方」〉

脱酸素剤を取り除く絵がなく、分かりにくい。

**オーブンレンジのオープン機能の場合 電子レンジ不可**

- 1 あらかじめオープン機能で予熱(250℃)してください。
- 2 トレイとピッツァの内装フィルムを取り除き、別添のバジルソースをよく振り、まんべんなくかけたらピッツァを注意してオープンレンジにのせてください。

**オーブントースター(1000W)の場合**

- 1 トレイとピッツァの内装フィルムを取り除き、別添のバジルソースをよく振り、まんべんなくかけてください。
- 2 オーブントースター(予熱なし)にのせてください。

#### 〈新パッケージの「おいしい召し上がり方」〉

脱酸素剤を取り除く絵を挿入、分かりやすくなった。

**オーブンレンジのオープン機能の場合 電子レンジ不可**

- 1 あらかじめオープン機能で予熱(250℃)してください。
- 2 トレイとピッツァの内装フィルムを取り除き、別添のバジルソースをよく振り、まんべんなくかけたらピッツァを注意してオープンレンジにのせてください。  
※脱酸素剤は食べられませんので開封後はお捨てください。

**オーブントースター(1000W)の場合**

- 1 トレイとピッツァの内装フィルムを取り除き、別添のバジルソースをよく振り、まんべんなくかけてください。
- 2 オーブントースター(予熱なし)にのせてください。  
※脱酸素剤は食べられませんので開封後はお捨てください。

**A**

生産・処理・加工・流通・販売等の段階で、食品の仕入先、販売先、生産・製造方法などの記録を取り、保管し、食品とその情報を追跡し、さかのぼることができるようにすることです。

## 食育

2005年に「食育基本法」が公布されてから「食」への関心が高まり、企業や学校、地域でさまざまな取り組みが行われています。伊藤ハムでは2007年1月、「食育に

関する基本理念」を制定。「食」に携わる企業として、食べることの喜びや楽しさ、大切さを伝える活動を積極的に展開しています。

### 「食育」に関する基本理念

#### 食育活動理念

伊藤ハムは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族揃っての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えてまいります

#### メインメッセージ

伝えていきたい食べるよろこび

#### 食育活動方針

- 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- 正しい食習慣をサポートします
- 貴重な食資源を大切にします
- 楽しい食文化を発信します

#### コーポレートメッセージ

### あふれる笑顔

お客様の「あふれる笑顔」を実現させるために、食育活動を推進してまいります



### 活動例

#### 手作りウインナー教室



#### ウインナーの飾り切り教室



#### “ちきゅうのめぐみ! いきいき食育組”

こべっこランド(神戸市総合児童センター)



# より多くのお客様とコミュニケーションするために SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) に公式サイト開設

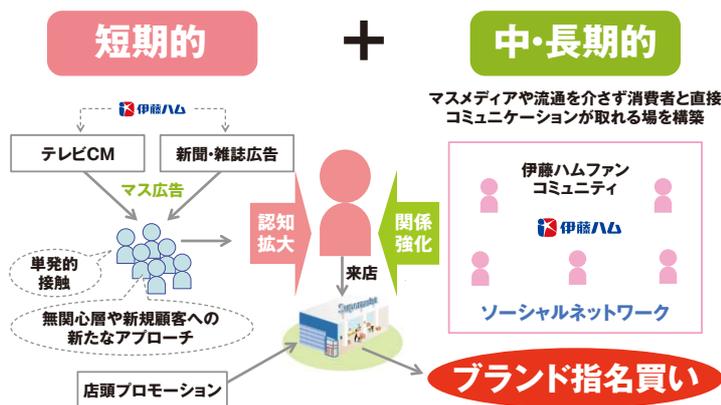
伊藤ハムはギフト商品を中心として広くお客様にご支持をいただいておりますが、競争の激化による販売価格の下落など、市場環境が厳しさを増している今、お客様と正面から向き合い、しっかりとしたコミュニケーションが必要であると考えました。

2011年に開設したSNSの公式コミュニティサイトでは、ネットワークを通じてより多くの皆様に伊藤ハムのファンになっていただき、ブランディング<sup>※1</sup>の強化を図る

目的があります。今後も、こうしたソーシャルメディアの活動を積極的に展開していくことで、お客様とのコミュニケーションの充実を図るとともに、高いエンゲージメント率<sup>※2</sup>を維持していきたいと考えています。

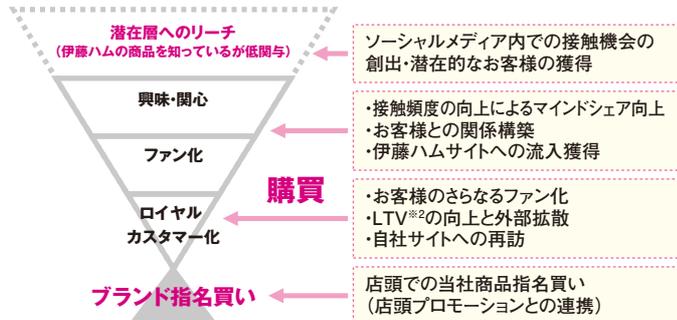
※1)ブランディング:企業が顧客にとって価値のあるブランドを構築するための活動。  
 ※2)エンゲージメント率:どれだけファンからの反応を得られているのかを表わす指標。  
 facebookの場合は「反応数÷ファン数」で算出し、投稿に対する「いいね!」の数とコメント数をそれぞれファン数で割って合計したものを。

## ●ソーシャルメディア展開の概要



## ●ソーシャルメディアマーケティング施策の目的

既存の施策ではアプローチできない潜在層へリーチし、お客様とのインタラクション<sup>※1</sup>の場を創出することで、潜在のお客様の獲得、ならびにさらなるファン化を図ります。



※1)インタラクション:お客様と相互に関係性を築いていくこと。  
 ※2)LTV(ライフタイムバリュー):顧客生涯価値。

## ソーシャルメディアに取り組むまでの経緯

- 2011 ●**
- 3月** 下旬よりGREE公式アカウントスタート
- 4月**
  - ・facebook公式サイトスタート
  - ・26日1,086人の「いいね!」獲得
  - ・GREEの「友だち」数が60,000人を突破、プロフDL数 80,000件強となる
- 5月** 20日3,000人の「いいね!」獲得
- 6月** NHK「あさいち」出演  
5,000人の「いいね!」獲得
- 7月** 19日10,000人の「いいね!」獲得
- 8月** 30日よりtwitterを使った  
アルトバイエルンキャンペーンを実施
- 12月** facebookの「いいね!」を  
17,000人弱を獲得
- 2012 ●**
- 1月**
  - ・アサノフレミキャラクター新登場
  - ・NHK「さきどり↑」出演 19,000人を突破
- 5月** 『ハム係長のとっておきレシピため息でるほど  
おいしいですよ。ぷふう〜』発刊
- 7月** 現在27,000人強のファン数を獲得

## A

食育基本法の前文に次のように書かれています。

①生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの。②様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、  
長期的な企業価値の向上を目指し、経営情報を開示します。

## 企業情報開示・IR活動

伊藤ハムではさまざまな機会やメディアを通じて、株主や

投資家の皆様への適時適正な情報開示に努めています。

### ホームページによる情報開示

伊藤ハムではホームページにおいて、適時適正な情報開示に努めています。

「伊藤ハム」ホームページ  
<http://www.itoham.co.jp>  
「株主・投資家の皆様へ」  
ホームページ  
<http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/syaze.html>



ホームページ画面

### 株主様向け報告書の発行

株主様向けの報告書を  
年に2回発行し、財務情報  
などをタイムリーにお伝えし  
ています。



第72期報告書

### 決算説明会

決算および第2四半期決算発表後、アナリスト・機関  
投資家様などを対象に決算説明会を開催しています。  
説明会資料については、ホームページにも掲載してい  
ます。

## 開かれた株主総会を目指して

近年、会社を取り巻く社会情勢がめまぐるしく変化し  
ている中、株主総会は経営方針を決定する場としてそ  
の重要性が高まっています。

伊藤ハムでは最高意思決定機関である株主総会を、  
株主の皆様と直接、意見を交換できる貴重な場と位置  
づけ、開かれた総会となる運営を目指しています。この一  
環として、招集通知書をグラフや写真を用いたカラー刷  
りにしております。また、株主総会においては、事業報告  
と計算書類などの報告では、ナレーションと映像を用い  
てご説明し、株主の皆様により理解していただけるよう  
努めています。

質疑応答においては、さまざまな視点からのご質問や  
貴重なご意見をいただき、それぞれに誠意をもって回答  
しています。



第72回 定時株主総会

## 株主優待制度

伊藤ハムでは、株主の皆様へ感謝の意を表すとともに、  
弊社の製品をより身近に感じていただくことを目的として、  
株式1,000株以上保有の株主様に対して、年1回(時期  
6月)、製品を贈呈する、株主優待を実施しています。



株主優待品(2012年6月送付)

伊藤ハムグループの社は「事業を通じて社会に奉仕する」の精神のもと、2003年4月に社会貢献推進委員会を設置し、地球環境への配慮と、地域社会との共生を目指して、社会貢献活動に取り組んでいます。

## 社会貢献活動 理念

伊藤ハムグループの基本理念のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

## 社会貢献活動 活動方針

- 1 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。
- 2 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
- 3 ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。
- 4 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
- 5 従業員の意思と責任に基づき、ボランティア活動を支援します。

### 1 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。

「食」に対する興味・関心を高めていただくことを目的に実施しています。

#### ウインナー作り教室と工場見学



#### ピザ・シチューパイ作り教室と工場見学



社会貢献活動の詳細情報は弊社ホームページでお知らせしています。  
お手数ですが、弊社ホームページにアクセスしてみてください。

◆伊藤ハム社会貢献活動への取り組みホームページ <http://www.itoham.co.jp/corporate/citizen/index.html>

### 2 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。

#### “食とeco”わくわく探検隊

食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えることを目的に実施しています。地球にやさしい炊事や、自然観察を行います。



#### 全国の事業所周辺の清掃活動

毎年のべ2,000人以上の従業員が事業所周辺の清掃活動を実施しています。



### 3 ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。

#### 被災地救済支援活動

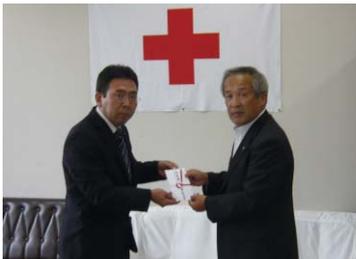
東日本大震災の被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。被災されました方々の救援活動および被災地の復興等に少しでも役立てていただくため、会社拠出金とグループ従業員募金、合わせて5,689万7,378円を寄付するとともに、緊急支援物資として弊社製品をお届けしました。

#### ●スマイルキャラバン号炊き出し活動



義援金や救援物資のほかにも、被災地での炊き出しを行いました。

#### ●各地での復興支援活動



2011年9月に発生した台風12号に対する義援金を寄付

東日本大震災被災地以外にも、義援金の寄付や救援物資として弊社製品を送っています。

#### 2011ユニセフ支援プロジェクト

弊社対象商品の売り上げの一部をユニセフに寄付し、2008年からスタートしたタンザニアの子どもたちを栄養不良から守るためのユニセフの活動を継続支援するとともに、子どもたちを中心とした東日本大震災で被災された方々への復興支援をしました。

#### ●東日本大震災復興支援 (日本ユニセフ協会による活動のようす)



©日本ユニセフ協会  
学用品や備品などを提供し、学校の再開を支援



©日本ユニセフ協会  
乳幼児健診や予防接種の再開を支援

#### ●タンザニア栄養事業支援



医療スタッフの研修を支援



治療用ミルクの提供



伊藤ハムはユニセフを支援します

### 4 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。

#### 森林保護活動

##### ●こうべ森の学校・関西



##### ●高尾の森づくりの会・関東



元気がなくなった森も ..... 間伐をすれば ..... 元気な森がよみがえります



人の手が入らない森は木が茂りすぎて、太陽の光や風の通りがさまたげられます。



間伐は、木々の間に光や風を呼び込むために行うもので、不要な木を取り除きます。

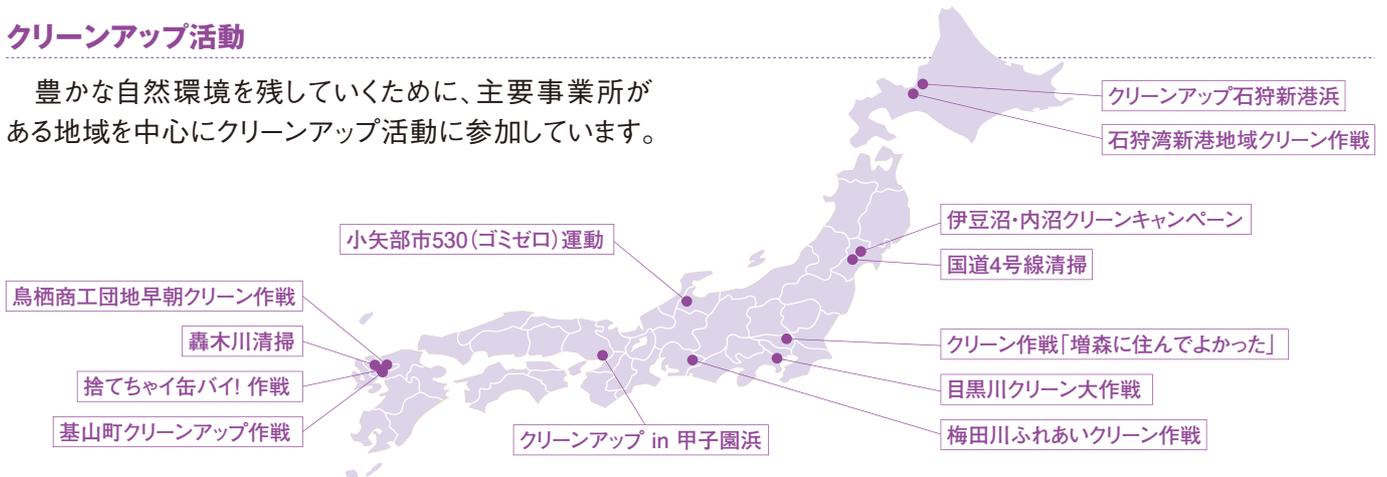


間伐した森はすっかり元気を取り戻します。

間伐材は、ログハウスの建設や、木工品の制作など有効利用しています。

#### クリーンアップ活動

豊かな自然環境を残していくために、主要事業所がある地域を中心にクリーンアップ活動に参加しています。



### 5 従業員の意思と責任に基づく、ボランティア活動を支援します。

#### 社会貢献推進期間

毎年9月～10月を『伊藤ハム社会貢献推進期間』と定め、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした活動を各地区で実施しています。

#### 社会貢献表彰

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。

#### ボランティア休暇制度

ボランティア活動に参加する場合、取得できる「ボランティア休暇制度」を設けています。

#### ボランティア体験イベント

ボランティア意識向上と、社会貢献活動への参加を促すために、「ボランティア体験イベント」を開催しています。



#### 従業員ボランティアによるイベントを開催

従業員ボランティアが運営する社会貢献イベントを各地で開催しています。



「こうべ森の学校」は、毎月1回、奇数月は第2土曜日、偶数月は第3日曜日に、六甲山地の再度(ふたたび)公園(神戸市)内の森林で活動しています。活動日に直接会場にお越しいただき、簡単な手続きをするだけで、誰でも参加できます。

### トピックス

がんばろう  
東北!

## スマイルキャラバン号による 炊き出し活動

東日本大震災で被災された皆様に支援するために、NGOピースポート様※と共同で2011年4月29日よりスマイルキャラバン号による炊き出し活動を開始し、伊藤ハムデイリー東北工場（宮城県栗原市）を拠点として、10月30日までの期間にのべ56ヵ所で17,461食の温かい昼食をご提供しました。

（※）ピースポート様：1983年に設立された非営利の国際交流団体

4月29日石巻市渡波（わたのは）地区



5月9日石巻市渡波地区



5月28日石巻市渡波駅前



5月28日石巻市渡波駅前



スマイルキャラバン号



従業員は会社の大切な財産です。何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

## 人材の育成・雇用

### 人材の育成

伊藤ハムグループでは、従業員個々の能力開発を目的とした「次世代リーダー育成」「キャリア開発」「ビジネススキル養成」「部門別教育」の各プログラムと、これを組織の成果へとつなげるための質の高いマネジメント風土の醸成を目的とした「マネジメント」プログラムの5つの人材育成プログラムを用意しています。また、2012年度より、新入社員の成長促進を狙いとしたメンター制度も導入しました。これからも、従業員一人ひとりの成長と組織の発展、および育成風土の醸成に向けた取り組みを継続していきます。

なお、教育研修の多くは応募型を採用しており、さらに、自己啓発や資格の取得を支援する制度も導入することで、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の門戸を開いています。

#### 教育体系

次世代リーダー育成プログラム	階層別リーダー育成研修
キャリア開発プログラム	新入社員研修・フォロー(入社1~3年目)研修
	階層別キャリアチャレンジ研修
	キャリアデザイン研修(女性社員対象)
ビジネススキル養成プログラム	社内FA制度・社内公募制度・キャリア面談制度・自己申請制度
	ロジカルコミュニケーション研修
部門別教育プログラム	キャプテンシップ研修
マネジメントプログラム	部門別スキルアップ研修
	マネジメントスキル研修(役職者対象)
	新任管理職研修・新任役職者研修
	レビュー者研修(女性社員の上司対象)
その他プログラム	目標管理制度
	通信教育制度(369講座)
	自己啓発支援制度・資格取得支援制度

### 障がい者雇用の促進

障がい者雇用率は、2012年6月現在、1.69%(法定雇用率1.8%)となっています。伊藤ハムは、1993年に法定雇用率(当時1.6%)を上回って以来、雇用率を維持した結果、「兵庫県障害者雇用促進協会会長賞」「兵庫県知事賞」「日本障害者雇用促進協会会長賞」を受賞しました。しかし、最近では事務系派遣の直接雇用化やグループ会社再編などの影響もあり、法定雇用率を下回っています。

今後は、伊藤ハムグループの雇用率向上に向け、障がい者が安心して働くことのできる環境・風土づくり、適用業務の整備・拡大を図りつつ、採用を行うための地盤づくりに取り組んでいきます。

### 定年退職者再雇用制度の拡充

定年退職後も働く意志があり、引き続き勤労者として社会に貢献したいと考えている従業員が積極的に働くことは、会社や社会にとっても大きなメリットという認識のもと、2006年に従来の「定年再雇用制度」を拡充、定年を迎える1年前(非正社員は半年前)に本人の意志を確認して最長65歳まで再雇用を継続する制度を導入しました。

再雇用期間は1年ごとの契約とし、継続就業の意志確認を毎年行っています。勤務形態は、従業員の希望をできるだけ汲み入れ、契約時間など柔軟に対応しています。その結果、2011年度は定年退職者の約75%にあたる71名を再雇用しました。再雇用だけでなく60歳以上の新規採用を進めるなど、少子高齢化に対応した制度運用を目指しています。



### 仕事と育児の両立を支援

最長2年間の育児休暇期間を安心して過ごし、スムーズに職場復帰ができるよう、2007年に「育児休暇取得者職場復帰支援プログラム」を導入、2010年には妊娠中から職場復帰後も利用できるSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)方式のコミュニティ機能を追加した新プログラムを導入しています。また、「短時間・時差勤務制度」および「フレックスタイム制度」、「家族ケア休暇」など職場復帰後の負担軽減を目的とした制度を導入して子育てを支援しています。

2005年に制定された「次世代育成支援対策推進法」をうけ、すべての従業員が能力を發揮できるような職場環境の整備と、育児休暇などの諸制度の充実を図ることを柱とした、「第三次次世代育成支援行動計画」を策定・実施し、2011年に「基準適合一般事業主」の認定を受けました。さらに、2011年から「第四次次世代育成支援行動計画」にて、段階的に支援を強化、制度拡充に努めています。

※伊藤ハムは2007年7月にも「基準適合一般事業主」として認定されています。(第一次次世代育成支援行動計画)



次世代認定マーク「くるみん」

## 労働安全衛生

伊藤ハムグループは、すべての人が安全に安心して働ける職場環境を実現するため、労働安全衛生管理に

取り組んでいます。

### 安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、安全に仕事をするための基本を身につけるために、「安全衛生の基本」の講義を行っています。また、生産工場などでは、作業手順教育や労働災害同種災害防止教育など、安全衛生教育を繰り返し実施し、不安全行動の撲滅、従業員の安全衛生意識向上に努めています。



新入社員安全衛生教育

### 安全衛生監査

「労働安全衛生関係法令、社内ルールの遵守徹底」と「労働災害や職業性疾病の発生防止」を目的として、CSR本部が年度の安全衛生監査計画に基づき、主要事業場の監査を実施し、遵法の指導と危険要因の改善に取り組んでいます。



安全衛生監査

### トピックス

## 障害者職業生活相談員 資格認定講習で講義 伊藤ハムウエスト(株)

佐賀障害者職業センター様の依頼により、障害者職業生活相談員資格認定講習の演壇に立ち、障がい者を雇用する企業の立場から、労務管理と日常生活や定着対策等について、具体的な事例を中心に講義しました。

受講者からは「障がい者の方を理解して接することや関わることの大切さが分かった」等の感想が寄せられました。

今後も障がい者雇用をはじめ、このような講義やイベントに協力することで地域社会に貢献していきます。



講義風景

## 健康管理

### 健康情報

お客様に信頼していただける仕事をするために心身の健康は必要不可欠なものです。伊藤ハム健康保険組合では、人間ドック、がん検診の受診費用補助や禁煙サポート、ウォーキングイベントなどの疾病予防や体育奨励事業を推進するとともに広報誌「きらり」やホームページを活用して、従業員とその家族に向けて健康情報を発信しています。

### メンタルヘルス

伊藤ハムグループ「心の健康づくり計画」に基づき、グループ内の推進体制の構築や「医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター」との提携によるEAP(従業員とその家族を対象とした従業員支援プログラム)の導入など、不調者への対応だけでなく、職場のコミュニケーションの活性化や生産性の向上に取り組んでいます。

地球環境を保全するために、省エネルギーや省資源、リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めています。

## 環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

## 基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

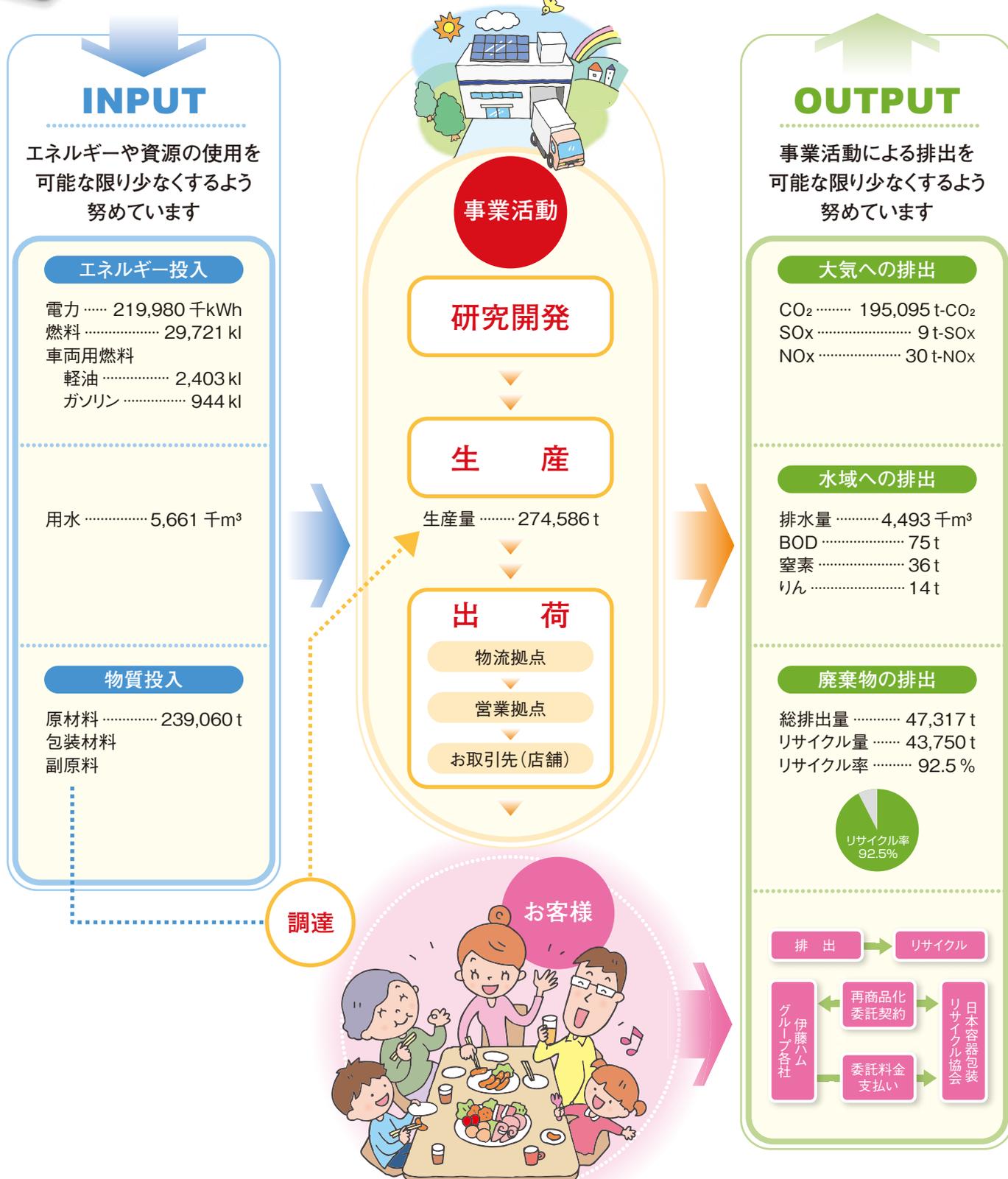
## 行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。



職場における従業員の「安全」と「健康」を確保するとともに、快適な職場環境形成を促進する活動のことで、一緒に働く仲間が「怪我をしない、させない」「病気になるらずに、健康に働ける」ように、安全衛生を確保するための取り組みです。食品の安全と衛生を守る「食品安全衛生」とは異なるものです。

### 環境負荷の全体像



対象範囲 ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部  
 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■サンキューミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター  
 ■沖繩フレッシュパック(株) ■藤藤栄 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■(株)大龍 ■伊藤ハム販売(株)  
 ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株) ■伊藤ハム物流(株)

#### 環境保全活動 Q&A

**Q** 工場の作業場で清掃に使用された水は、どう処理しているの？

**A** は 次のページで! ▶▶



# 第4次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2011年度は冷凍機やボイラーの更新、屋根の遮熱塗装、敷地内の消雪に雨水を利用するなどを実施し、

次の通りの結果となりました。

### 【第4次中期環境目標】

項目	指標	基準年度 (2009年度)	2011年度目標値		2011年度結果		評価
			数値	増減	数値	増減	
1) 省エネルギー、省資源の推進	・ 総エネルギー使用量(GJ/t)	11.8	11.6	▲2%	10.9	▲7.6%	
	・ 用水使用量(m³/t)	22.1	21.7	▲2%	20.5	▲7.2%	
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進	・ 廃棄物排出量(kg/t)	193	189	▲2%	167	▲13.2%	
	・ リサイクル率(%)	94.4	100.0	5.6ポイント	94.8	0.4ポイント	
3) 温室効果ガスの排出削減	・ 二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量(kg-CO <sub>2</sub> /t)	679	665	▲2%	625	▲7.9%	
4) グリーン購入の推進	金額ベース ・ 事務用品のグリーン購入率(%)	98.5	100.0	1.5ポイント	97.5	▲1.0ポイント	
	数量ベース ・ 事務機器のグリーン購入率(%)	100.0	100.0	0.0ポイント	100.0	0.0ポイント	
5) 環境管理体制の充実	・ グループ会社のISO14001認証取得推進 ・ 環境監査の継続実施						

※1)~3)は生産原単位 ※総エネルギー:熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) 5)は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

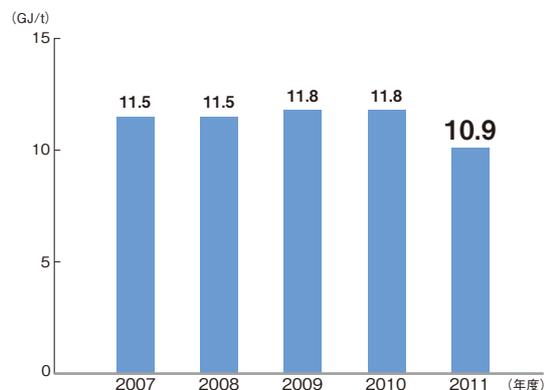
## 1 省エネルギー、省資源の推進

総エネルギー生産原単位は  
**7.6%減少**しました。

自己評価



■ 総エネルギー生産原単位の推移

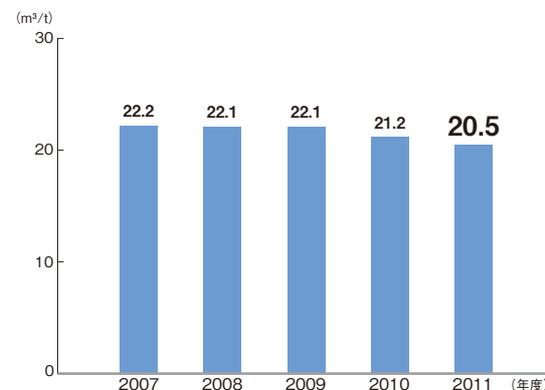


用水生産原単位は  
**7.2%減少**しました。

自己評価



■ 用水生産原単位の推移



対象範囲(1.2.3) ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場  
■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部(2007~2009年度)  
■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター  
■沖繩フレッシュパック(株) ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■株菊水本社工場、サッポロファクトリー ■株大龍 ■株藤栄



清掃に使用された水は、排水管を経て廃水処理設備に流れます。そこで汚濁物と水を分離、法律や条例で定められた排水基準まで浄化した後、下水道や河川などへ放流しています。汚濁物(汚泥)は廃棄物処理施設に搬送し、土壌改良剤等にリサイクルしています。

### 2 廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物生産原単位は  
**13.2%減少**。  
リサイクル率は  
**0.4ポイント**高めました。



■ 廃棄物生産原単位とリサイクル率の推移



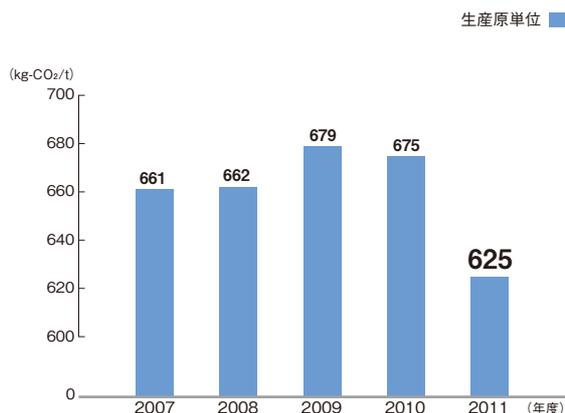
※2008年度より廃棄物の種類の集計範囲を増やしたために、生産原単位は大幅に増加しました。

### 3 温室効果ガスの排出削減

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)生産原単位は  
**7.9%削減**しました。



■ 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の生産原単位の推移

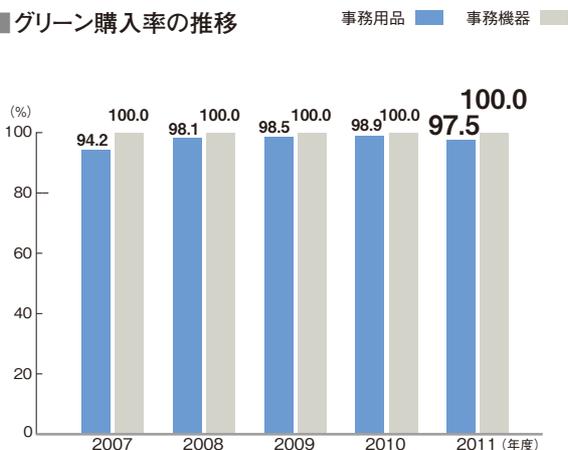


### 4 グリーン購入の推進

事務用品のグリーン購入率は  
**1.0ポイント**下がりました。  
事務機器は  
**100%**を維持しました。



■ グリーン購入率の推移



### 5 環境管理体制の充実

環境監査を実施し、問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。

項目	2011年度の結果
ISO14001	船橋工場閉鎖にともない1事業所減少
環境監査	58事業所で実施

■ 自己評価

- 2011年度の実績が目標値の100%以上でした。
- 2011年度の実績値が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。
- 2011年度の実績が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

対象範囲(4) ■伊藤ハム株式会社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■株大龍(2009年度～2010年度)

# 2011年度の活動ハイライト

伊藤ハムグループでは、事業活動における環境負荷を低減し、持続可能な社会の構築に貢献するために、さ

まざまな取り組みを行っています。ここでは、2011年度に行った取り組み内容をハイライトで紹介합니다。

### 環境監査の実施

監査計画に基づいて環境監査を実施しています。問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。



環境監査(神戸工場)



環境監査<筑紫ファクトリー(熊本九州工場)>

詳しくは

25 ページ

### 緊急時の対応訓練の実施

生産工場などでは、環境汚染や環境事故などの突発的事態の発生に備え、定期的に訓練を実施しています。



不完全処理水の流出防止対応訓練<伊藤ハムウエスト(株)九州工場>



詳しくは

26 35 ページ

### 省エネルギーの取り組み

断熱効果の高い塗料による屋根の塗装、高効率タイプの冷凍機に更新、効率の良いボイラーに更新するなど、省エネルギーの取り組みを進めています。



断熱効果の高い塗料による屋根の塗装(東京工場)



効率の良いボイラー<伊藤ハムデイリー(熊本陸工場)>

詳しくは

27 ページ

### 環境ボランティア体験学習

ボランティアへの参加意識を高めるために、従業員とその家族を対象として、自主プログラムによるボランティア体験活動を定期的に開催しています。



課外授業「こうべ森の学校」



クリーンアップin甲子園浜

詳しくは

32 ページ

### 廃棄物、二酸化炭素排出量の削減

実物サンプルに代わるサンプルとして、商品1点1点を特殊なカメラで撮影し、高いデータ加工技術と製版技術を駆使して作成したリアルイミテーション<sup>※</sup>を導入し、廃棄物、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。

※弊社試算では、リアルイミテーションは、実物サンプルと比べて焼却処分時に排出される二酸化炭素を60~70%程度削減可能です。



リアルイミテーション

詳しくは

30 ページ

A

一定量の製品を生産するために必要となるエネルギー・用水・包材などの生産要素の量のことを言います。l/t、m<sup>3</sup>/t、kg/tなどの単位で表し、環境活動の評価のモノサシになる単位です。

## 環境マネジメント

環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献していくために、環境マネジメントシステムを構

築し、運用しています。

### 環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進し、資源やエネルギー、廃棄物問題などに対して、迅速かつ円滑に対応できるような環境管理体制を構築しています。環境基本方針や目標設

定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定しています。

### 社長

#### 環境委員会



議長:CSR本部長  
委員:事業本部長(もしくは代理者)  
          間接部門長  
事務局:コンプライアンス推進室

#### 【役割】

1. 環境基本方針の審議・決定
2. 環境管理活動報告の確認
3. 環境活動計画の確認・審議・承認

#### 生産部会



#### 【活動】

1. 省エネルギー、用水削減対策に関すること
2. 廃棄物の減量とリサイクルに関すること
3. 公害防止と環境保全に関すること
4. グリーン購入に関すること
5. 環境関連法に関すること
6. 社会・環境活動に関すること
7. その他、環境関連の諸問題に関すること

#### 食肉生産部会



#### 【活動】

1. 省エネルギー、用水削減対策に関すること
2. 廃棄物の減量とリサイクルに関すること
3. 公害防止と環境保全に関すること
4. 環境関連法に関すること
5. 社会・環境活動に関すること
6. その他、環境関連の諸問題に関すること

#### 環境専門会議

#### 環境専門会議

#### 工場環境会議

- 【役割】
- |                    |                 |                |
|--------------------|-----------------|----------------|
| 1. 環境マネジメントシステムの運用 | 4. 廃棄物の削減とリサイクル | 7. 循環型社会形成への対応 |
| 2. 省エネルギー対策        | 5. グリーン購入       |                |
| 3. 用水削減            | 6. 公害防止と環境保全    |                |

#### 環境専門会議

### 環境監査の実施

事業所内で実施する内部環境監査のほかに、環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動のより一層のレベルアップを図るために、CSR本部が、年度の計画に基づいて主要事業所の監査を実施しています。2011年度は、合計58事業所の監査を実施しました。

#### 監査項目

- 環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理など

#### 監査結果

- 廃棄物管理や環境関連施設にかかわる届出事項に一部不備がありましたが、すべて是正しました。



環境監査



### ISO14001 認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を実施するために、ISO14001国際標準規格を認証取得しています。

認証取得事業所一覧

35 ページ

### グリーン購入

「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、省エネルギー・省資源など、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。今後も環境に配慮した物品購入に取り組んでいきます。



グリーン購入一覧

37 ページ

### 関係法規および法の遵守

事業活動にかかわる環境関連法や各地域での環境保全協定などの遵守はもちろんのこと、事業所ごとに厳しい自主基準値を設けて、遵守状況を管理しています。さらにCSR本部などによる「環境監査」を実施し、法令の遵守に万全を期しています。

伊藤ハムグループの事業所に適用される環境関連法の主なものには次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)
- 資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)
- エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネルギー法)
- 地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定 など

### 環境管理へのお問い合わせ

2011年度は次のようなお問い合わせをいただきました。お問い合わせに対してはその都度、迅速かつ誠実に対応しています。対応策実施後、効果を確認し、先様に報告しご了解をいただいています。(お名前を覚えていただけなかった場合を除く)

	内 容	対応策
騒音のお問い合わせ	工場からの騒音が気になる。	コンプレッサーやボイラーから発生する音が原因。応急措置として防音シートを設置、その後、防音壁を設置しました。
	防音シートが撤去され、工場からの騒音が気になる。	防音壁設置工事のために、防音シートを一時的に解体したことを説明し、納得していただきました。
	日曜日、工場からの騒音が気になる。	生産ライン設置に関わる屋外工事を実施しており、その工場の音が原因。屋外工事を中断、今後、屋外工事は平日に作業することとしました。
	夜、工場からの騒音が気になる。	工場の給気ダクト等から発生する騒音が原因。焼成機用給気ダクト、機械室給気ダクトを停止しました。
臭いのお問い合わせ	工場からの臭気が気になる。	廃水処理設備の原水槽およびスクリーン周辺の風の回り方による臭気の巻き上げが原因。スクリーンを含む周辺の目張りを実施しました。
	工場からの臭気が気になる。	脱臭装置の故障が原因。脱臭装置を修理しました(修理が完了するまで、応急措置として加圧浮上室扉を目張りし扉の開閉を禁止しました)。
排水のお問い合わせ	工場から放流されている水が黒い。	地震による地盤のゆるみと大雨による影響で監視池に入った土砂を除去する工事の際に、工事業者の判断で、監視池の上澄み排水を廃水処理設備を通さずに直接放流した際に黒濁した水が流れ出たもの。監視池の排水ポンプを停止し、廃水処理施設を通して放流することとしました。
砂埃のお問い合わせ	風の強い日は、敷地からの砂埃が激しい。	お問い合わせのあった敷地は更地であり、風の強い日は、土や砂が舞い上がるため、白クローバーと野芝を敷地内に撒く緑化対策を実施しました。

### 緊急時の対応策

事業所の管理範囲外や敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防ぎ汚染を最小限にするとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。



汚水の漏洩対応訓練(東京工場)

緊急時の対応訓練一覧

35 ページ

## A

事業者が自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことです。

### 環境負荷低減の取り組み

伊藤ハムグループでは、電力・燃料・用水の使用量や温室効果ガス、廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな取り組みを実践しています。

2011年度に実施した各部門の主な環境負荷低減の取り組みは次のとおりです。

#### 生産部門 ハム・ソーセージ類、調理加工食品等

##### 省エネルギーの取り組み(電力、燃料使用量の削減対策)

- 断熱効果の高い塗料で屋根を塗装しました。
- 冷凍機・空調設備を高効率タイプに更新しました。
- 効率の良いボイラーに更新しました。
- 夏期、屋根や空調室外機に散水し、設備全体の温度を下げ、冷房装置の負荷低減に努めました。
- 事務所棟の窓に遮熱カーテンを設置しました。



高効率冷凍機(西宮工場)



効率の良いボイラー  
(伊藤ハムウエスト(株)九州工場)

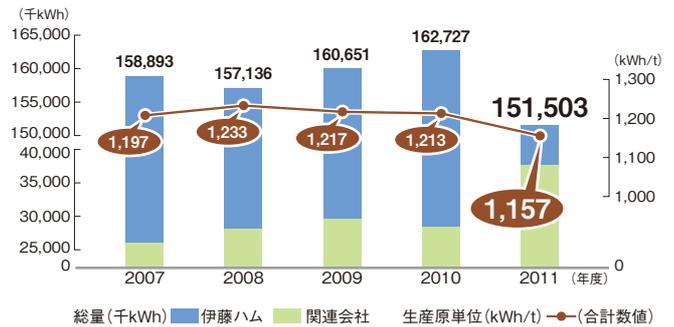


屋根にスプリンクラーで散水(東京工場)

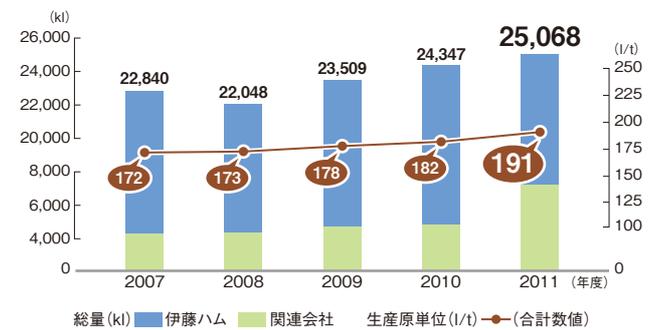


事務所棟の遮熱カーテン(東京工場)

##### 電力使用量の推移



##### 燃料使用量の推移



##### 用水使用量の削減対策

- 蒸気ドレン水を回収して、ボイラー用水に再利用しました。
- 冷却水を再利用しました。
- 敷地内の消雪に雨水を利用しました。

##### 用水使用量の推移



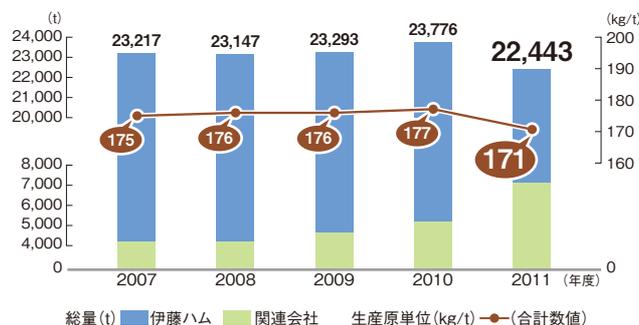
### 廃棄物の削減と有効利用

- 廃ポリシートをマテリアルリサイクルしました。
- 油脂分離回収装置を導入し廃水処理設備に流入する排水の水質を改善するとともに、スクリーンクリートを設置して油脂分離効率を上げ、汚泥の発生を抑制しました。

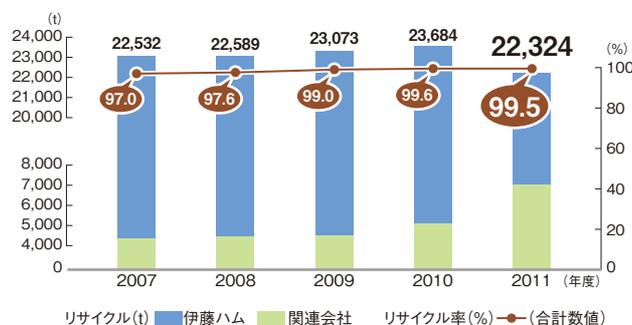


油脂分離回収装置(左)とスクリーンクリート(右)  
(伊藤ハムウエスト(株)九州工場)

### ■ 廃棄物の排出量の推移

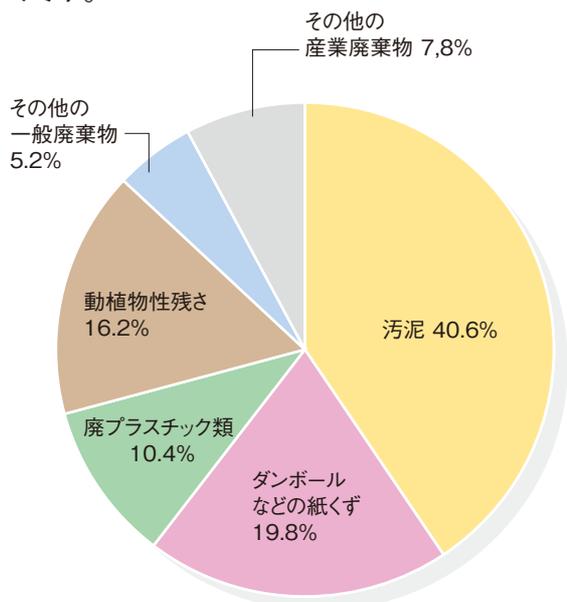


### ■ リサイクル量とリサイクル率の推移



### 廃棄物の排出量の割合

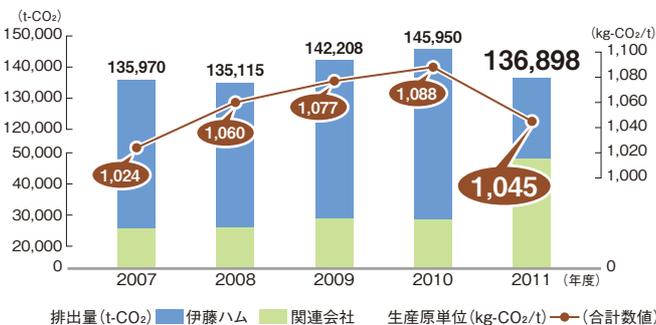
- 生産工場から排出される廃棄物の割合は以下のとおりです。



### 温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- フロンガスの漏洩を削減するために、定期的に冷凍設備などの点検を実施しています。
- 排気ガスや排水は規制値より厳しい自主基準値を定めて管理し、異常の早期発見、迅速な対応を実践しています。

### ■ 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量の推移



対象範囲(ハム・ソーセージ類、調理加工食品等の生産工場) ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデューシー(株)東北、小樽、北陸各工場  
 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場  
 ■株式会社大龍(2007年度より2009年度まで計上、2010年度より生産部門(惣菜、麺類等の調理加工食品)に分類しました。)



環境への影響が少ない製品を選んで買うことです。弊社では、電力消費量が少ないコピー機やパソコンなどのオフィス機器、詰め替えができるのりや再生紙を使ったファイルなどの事務用品を優先して購入しています。

### 食肉部門

#### 省エネルギーの取り組み(電力、燃料使用量の削減対策)

- 冷凍機を高効率タイプに更新しました。
- 夏期、屋根や空調室外機に散水し、設備全体の温度を下げ、冷房装置の負荷低減に努めました。
- 冷やしすぎることがないように、冷蔵庫や空調機の温度設定をこまめに調整しました。

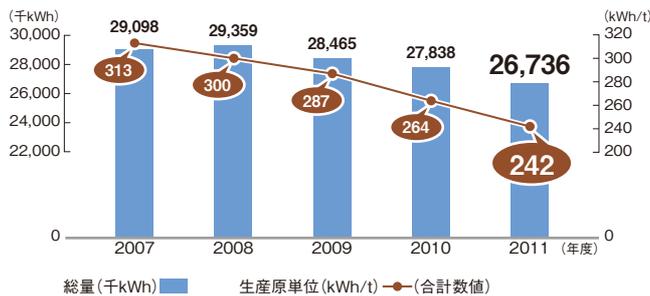


高効率冷凍機  
(沖縄フレッシュパック株)



屋根にスプリンクラーで散水  
(サンキョーミート株式会社)

#### ■ 電力使用量の推移



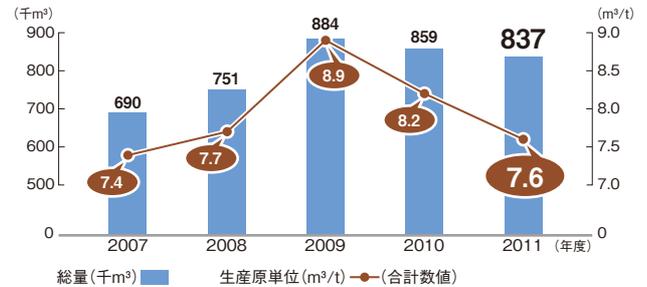
#### ■ 燃料使用量の推移



#### ■ 用水使用量の削減対策

- 清掃時には、必要以上に水を流すことがないように、蛇口の開閉をこまめに調整しました。

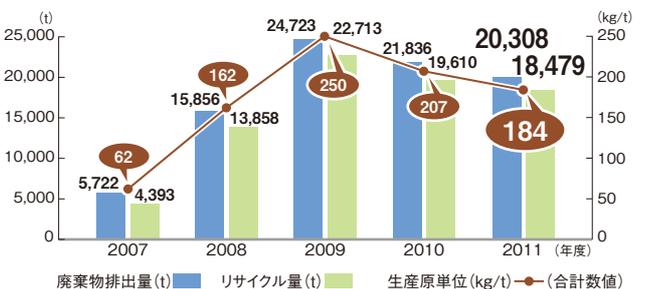
#### ■ 用水使用量の推移



#### ■ 廃棄物の削減と有効利用

- 梱包や真空包装時の作業ミスを低減し廃棄物の発生を抑制するとともに、廃棄物の分別を徹底し、リサイクル化を進めました。

#### ■ 廃棄物排出量とリサイクル量の推移

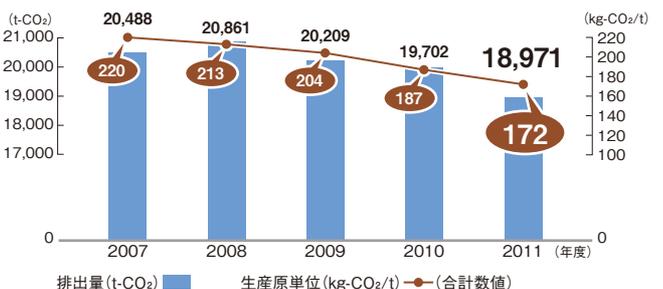


\*2008年度より廃棄物の種類の集計範囲を増やしました。

#### ■ 温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- 排気ガスや排水は規制値より厳しい自主基準値を定めて管理し、異常の早期発見、迅速な対応を実践しています。

#### ■ 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の排出量の推移



対象範囲 ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部(2007~2009年度) ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター  
■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パッカーセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■株藤栄

### 物流・営業部門

#### 省エネルギー、二酸化炭素排出量削減の取り組み(電力、燃料使用量の削減対策)

- 積み合わせ輸送・混送便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択、輸送ルートの見直しなど、輸送効率を向上させました。
- 保有車両の低公害車(低燃費、低排出ガス自動車、アイドリングストップ機能搭載車、ハイブリッド車など)への転換を進めました。
- ドライバーの運転マナーおよびエコドライブ実践意識を向上させるために、エコドライブ講習を実施しました。
- 車両にエコドライブステッカーを貼り付け、従業員の意識啓発を行い、エコドライブの実践を強化しました。
- 「エコドライブ推進月間」である11月に、ポスターを掲示しエコドライブの実践を強化しました。



車両の後部(左写真)と車内に貼り付けられたステッカー



エコドライブ講習

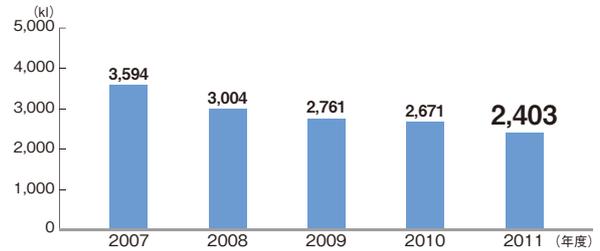


「エコドライブ推進月間」ポスター

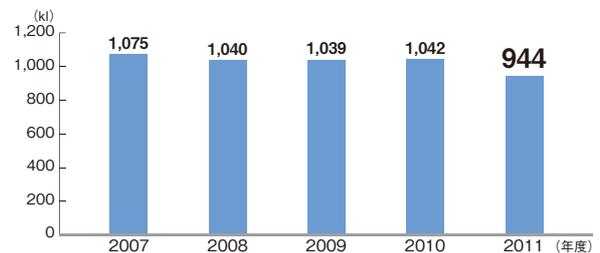
#### 廃棄物の削減対策

- 過剰在庫とならないように、適正量の発注を心がけ、売れ残りなどの食品廃棄物の発生抑制に努めています。
- サンプルを無駄にしないように、適正量を手配するように努めています。

#### ■ 車両燃料(軽油)使用量の推移



#### ■ 車両燃料(ガソリン)使用量の推移



### トピックス

#### リアルイミテーションを導入し、廃棄物、二酸化炭素排出量を削減

お客様先の店頭で陳列する塩漬したギフト用サンプルは、中元、歳暮期を合わせ、約6万セットを使用し、展示期間終了後は廃棄処理されてきました。

その対策として伊藤ハムではリアルイミテーションを導入。商品1点1点を特殊なカメラで撮影し、高いデータ加工技術と製版技術を駆使することで、実物により近い形に仕上がっています。

今後、実物サンプルに代わるサンプルとして、より広範囲に展開し、廃棄物の削減を目指します。また、実物サンプルと比べて焼却処分時に排出される二酸化炭素を60~70%程度削減できると試算されており、二酸化炭素排出量の削減も同時に進めていきます。



対象範囲 ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデリー(株)営業部 ■伊藤ハムウエスト(株)営業部 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■伊藤ハム物流(株)



「エコロジー(環境)」と「エコノミー(経済・節約)」を考えた「環境に配慮した、経済的な運転」、つまり「燃費を向上させる運転スタイル」のことで。弊社では車両に「エコドライブ実施中」のステッカーを貼り、ドライバーの意識啓発を行いエコドライブを実践しています。

### オフィス部門

#### 省エネルギーの取り組み(電力、燃料使用量の削減対策)

- クールビズ・ウォームビズを実施、夏場は室温が28℃、冬場は20℃となるように空調機の温度設定を調整し、節電に取り組みました。
- 省エネタイプの蛍光灯への切り替えを進めるとともに、こまめな消灯を実施しています。
- 本社事務所棟の空調機を更新しました。
- 会議室など、使用後は、その都度こまめに空調機の電源を切り、節電しています。



クールビズの実施を周知する表示(本社事務所)

#### 用水使用量の削減

- 給湯室で水を使用する際は、こまめに蛇口を閉めるようにし、節水しています。
- 食器等を洗う際は、洗い桶に水を溜めて洗うようにしています。

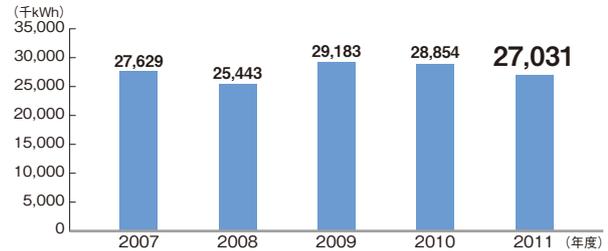
#### グリーン購入

- 文具、事務用紙、事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。

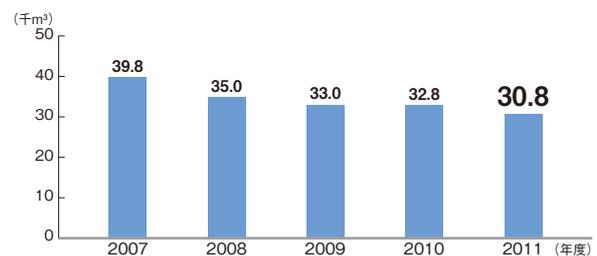
対象範囲(電力使用量、用水使用量) ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)営業部 ■伊藤ハムウエスト(株)九州営業部 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株) ■伊藤ハム物流(株)

対象範囲(グリーン購入率) ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所

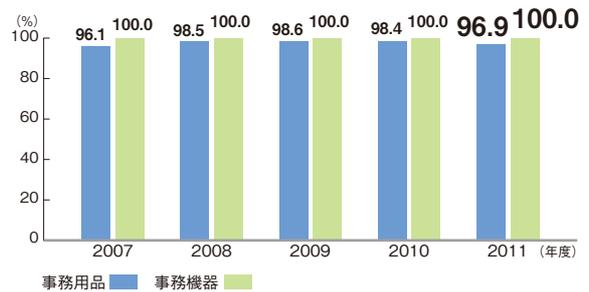
#### ■ 電力使用量の推移



#### ■ 用水使用量の推移



#### ■ グリーン購入率の推移



## 生物多様性保存への取り組み

- たばこのフィルターなど健康を害するものを小動物が食さないことを願って、事業所周辺や海岸でクリーンアップ活動を展開しています。甲子園浜(兵庫県西宮市)では、海を漂い、海鳥や魚類への悪影響が懸念されるレジンペレット\*の回収を実施しました。

\*プラスチック製品の中間材料。2~6mmと小さく軽い。本来は自然界には存在しないが、事業場からの漏れ出し、船の荷役作業時等にこぼれたもの、不法投棄等で河川や湖沼、海洋に流出したものと考えられる。なかなか自然に分解されないため、河川や湖沼、海洋に長く漂流する。誤食する鳥や魚もあり、生体に何らかの影響がある可能性が懸念されている。

- 「こうべ森の学校」、「高尾の森づくりの会」に参加し、間伐作業や植樹などの森林保護活動を行っています。



ビーチクリーンアップ活動



森林保護活動

## 環境情報開示

環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動はもちろんのこと、CSR活動について、社内外へ情報発信す

ることは企業の果たすべき責任であると考え、積極的に情報を開示しています。

### CSR報告書の発行、ホームページで情報開示

環境保全活動をはじめ、CSR活動をご理解いただくために、2000年からCSR報告書を発行※しています。2012年CSR報告書より冊子を廃止し、ホームページで情報開示しています。

また、「伊藤ハムグループ 2012年CSR報告書」ホームページ上に専用フォームを設け、CSR報告書に関するご意見、ご感想などをご投稿いただけるようにしています。



※2000年はエコレポート、2001年～2004年は環境報告書、2005年～2007年は社会・環境報告書、2008年よりCSR報告書として発行



2009年版  
(2009年10月発行)



2010年版  
(2010年11月発行)



2011年版  
(2011年12月発行)

## 従業員教育・地域とのコミュニケーション

「地球にやさしい」企業風土の醸成、従業員一人ひとりの環境保全意識を高めるために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。

また、ボランティア活動を通じて環境のことを学ぶ、環境ボランティア体験学習を実施しています。

### 環境教育

- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における一般教育・専門教育
- 営業部門におけるエコドライブ教育
- 社内報「YAKUDO(躍動)」に環境関連記事を掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置
- 社外の環境教育・セミナーなど



新入社員の環境教育



社内報「YAKUDO」

### 環境情報の開示および共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるために、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。

### 環境ボランティア体験学習

- 課外授業 「こうべ森の学校」
- クリーンアップ in甲子園浜



### 地域との交流

NPO法人「こども環境活動支援協会」(西宮市)の「環境学習支援プロジェクト」に参加しています。また、教育機関からの要望に応じて、環境学習「出前授業」を実施しています。



環境学習出前授業(兵庫県立小野高等学校)



質疑応答

A

リサイクル可能な廃棄物については、再生業者に委託し、ダンボールはトイレペーパーや再生紙、動植物性残さは肥料や飼料、廃プラスチック類はプラスチック製杭など、汚泥は肥料やセメント原料などにリサイクルしています。



## 環境会計

2001年度より主要生産工場の環境関連施設や環境に関わる取り組みに投入したコスト、投入コストにともなう環境保全効果を集計し、環境経営に利用しています。

前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績および増減値を記載しています。

### 2011年度環境会計の分析

今期は、冷凍機やボイラーの更新、屋根の遮熱塗装などの投資を行いました。前期、西宮工場において、排水を下水放流に切り替える廃水処理設備改修工事にとまなう投資を行いました。廃水に関わる設備投資が減少したことなどにより、全体としての投資額は減少しました。

また、西宮工場における廃水処理設備の維持管理費用や廃棄物処理費用などの減少により、環境保全コストの費用額も前年より減少しました。

環境関連施設の改善、維持管理に関しては、今後も内容を精査しながら対策を進め、効果的な投資を行います。

#### 【環境保全コスト】

(単位:千円)

分類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		382,306	274,650	▲107,656	885,740	686,060	▲199,680
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	330,983	72,147	▲258,836	605,827	407,933	▲197,894
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	19,776	173,304	153,528	39,184	41,600	2,416
資源循環コスト	廃棄物のリサイクルおよび処理処分費用	31,547	29,199	▲2,348	240,729	236,527	▲4,202
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料等	290	300	10	262,630	247,387	▲15,243
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	6,565	2,045	▲4,520	56,454	44,370	▲12,084
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	緑化・その他環境活動費用	245	240	▲5	8,120	4,835	▲3,285
環境損傷コスト	燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	1,434	1,066	▲368
合計		389,406	277,235	▲112,171	1,214,378	983,718	▲230,660

#### 【環境保全効果】

効果の内容	環境パフォーマンス指標(単位)	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(GJ)	2,494,904	2,343,822	93,699
	電力エネルギー投入量(GJ)	1,498,283	1,394,710	69,112
	その他燃料投入量(GJ)	996,621	949,112	24,587
	用水の投入量(千m <sup>3</sup> )	4,168	4,077	▲5
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量(t-CO <sub>2</sub> )	141,662	132,766	5,638
	廃棄物総排出量(t)	23,328	21,985	806
	総排水量(千m <sup>3</sup> )	3,331	3,100	154
	BOD排出量(t)	84	57	26
	SOx排出量(t)	8	9	▲1

※指標の値 原単位調整効果:生産原単位を加味した削減効果  
 【前期投入量(排出量)×(当期生産量/前期生産量)-当期投入量(排出量)】  
 当期生産量/前期生産量=0.977  
 ※エネルギー投入量は、購入電力、燃料、購入熱(蒸気)を熱量換算した値(GJ)

#### 【環境保全対策にともなう経済効果】

(単位:千円)

効果の内容	総金額	原単位調整金額
収益		
廃棄物の有価売却による収益	5,641	6,617
費用削減		
省エネルギーによるエネルギー費の削減(電力・燃料・購入蒸気)	▲21,804	▲100,108
用水に係る費用の削減	57,635	45,911
廃棄物処理費の削減	10,181	3,981

※指標の値 収益:当期収益-前期収益  
 費用削減:前期に対する費用削減額【前期費用-当期費用】  
 原単位調整金額:生産原単位を加味した収益【当期収益-前期収益×(当期生産量/前期生産量)】  
 費用削減:生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×(当期生産量/前期生産量)-当期費用】  
 当期生産量/前期生産量=0.977

#### 集計方法

- 投資額および減価償却費は、100%環境目的のものほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
- 環境保全効果については原単位調整効果、経済効果については、効果の総金額と原単位調整金額の両方で集計しました。
- 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン(2005年度版)」に沿っています。

#### 2011年度の集計結果

集計期間: 2011年4月1日  
 ~2012年3月31日

集計範囲: 伊藤ハム株式会社  
 (神戸工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場、船橋工場)  
 伊藤ハムデイリー株式会社  
 (東北工場、小樽工場、北陸工場)  
 伊藤ハムウエスト株式会社  
 (九州工場)





## 環境データ

### 部門別の環境負荷

部門	INPUT	事業活動	OUTPUT
生産部門 (ハム・ソーセージ類、 調理加工食品等)	<b>エネルギー投入</b> 電力 …… 151,503 千kWh 燃料 …… 24,802 kl 用水 …… 4,184 千m <sup>3</sup> <b>物質投入</b> 原材料 …… 102,043 t 包装材料 副原料	ハム・ソーセージ類、 調理加工食品等の 生産  生産量 …… 130,995 t	<b>大気への排出</b> CO <sub>2</sub> …… 136,898 t-CO <sub>2</sub> SOx …… 9 t NOx …… 30 t <b>水域への排出</b> 排水量 …… 3,208 千m <sup>3</sup> BOD …… 75 t 窒素 …… 36 t リン …… 14 t <b>廃棄物の排出</b> 総排出量 …… 22,443 t リサイクル量 …… 22,324 t リサイクル率 …… 99.5 %
生産部門 (惣菜、麺類等の 調理加工食品)	<b>エネルギー投入</b> 電力 …… 14,710 千kWh 燃料 …… 3,238 kl 用水 …… 609 千m <sup>3</sup> <b>物質投入</b> 原材料 …… 22,417 t 包装材料 副原料	惣菜、麺類等の 調理加工食品の生産  生産量 …… 33,034 t	<b>大気への排出</b> CO <sub>2</sub> …… 15,612 t-CO <sub>2</sub> <b>水域への排出</b> 排水量 …… 532 千m <sup>3</sup> <b>廃棄物の排出</b> 総排出量 …… 3,219 t リサイクル量 …… 2,783 t リサイクル率 …… 86.5 %
食肉部門	<b>エネルギー投入</b> 電力 …… 26,736 千kWh 燃料 …… 1,620 kl 用水 …… 837 千m <sup>3</sup> <b>物質投入</b> 原材料 …… 114,600 t 包装材料 副原料	食肉の処理加工、製造 および包装加工等  生産量 …… 110,557 t	<b>大気への排出</b> CO <sub>2</sub> …… 18,971 t-CO <sub>2</sub> <b>水域への排出</b> 排水量 …… 725 千m <sup>3</sup> <b>廃棄物の排出</b> 総排出量 …… 20,308 t リサイクル量 …… 18,479 t リサイクル率 …… 91.0 %
物流・営業、 オフィス部門	<b>エネルギー投入</b> 電力 …… 27,031 千kWh 燃料 …… 61 kl 車両用燃料 軽油 …… 2,403 kl ガソリン …… 944 kl 用水 …… 31 千m <sup>3</sup>	製品の物流 販売 業務全般	<b>大気への排出</b> (事業所から排出するもの) CO <sub>2</sub> …… 15,129 t-CO <sub>2</sub> <b>大気への排出</b> (製品の輸送にともなって 排出するもの) CO <sub>2</sub> …… 8,485 t-CO <sub>2</sub> <b>水域への排出</b> 排水量 …… 28 千m <sup>3</sup> <b>廃棄物の排出</b> 総排出量 …… 1,347 t リサイクル量 …… 164 t リサイクル率 …… 12.2 %

対象範囲 【生産部門(ハム・ソーセージ類、調理加工食品等)】 ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイルー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場  
 【生産部門(惣菜、麺類等の調理加工食品)】 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■株式会社水本工場、サッポロファクトリー ■(株)大龍  
 【食肉部門】 ■サンキューミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター ■沖繩フレッシュパック(株) ■(株)藤栄  
 【物流・営業、オフィス部門】 ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイルー(株)営業部 ■伊藤ハムウエスト(株)営業部 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)中部LC ■伊藤ハム物流(株)



環境対策や環境保全を進めるためにどれだけコストをかけたか、その結果、どんな効果が得られたかなどを、定量的に評価することで、自社の環境保全への取り組みをより効率的で効果の高いものにするための経営管理上の分析ツールのことを言います。

### 【2011年度 緊急時の対応訓練】

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム(株)		
六甲工場	薬品・汚泥・汚水の漏洩対応訓練	8
西宮工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
	フロンガスの漏洩対応訓練	6
豊橋工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
	フロンガスの漏洩対応訓練	7
	重油の漏洩対応訓練	7
東京工場	廃油の漏洩対応訓練	6
	汚水・薬品の漏洩対応訓練	6

#### 伊藤ハムデイリー(株)

東北工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	2
	フロンガスの漏洩対応訓練	7
	重油の漏洩対応訓練	7
小樽工場	汚水・重油の漏洩対応訓練	3
	フロンガスの漏洩対応訓練	3
北陸工場	薬品の漏洩対応訓練	4
	汚泥・重油の漏洩対応訓練	2
	フロンガスの漏洩対応訓練	2

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハムウエスト(株)		
九州工場	薬品漏洩事故防止訓練	4
	不完全処理水の流出防止対応訓練	4
	フロンガスの漏洩対応訓練	6

#### サンキョーミート(株)

有明ミート工場	フロンガスの漏洩対応訓練	8
霧島ミート工場	重油の漏洩対応訓練	3

#### IHミートソリューション(株)

九州バックセンター	薬品の漏洩対応訓練	6
神戸バックセンター	オイルの漏洩対応訓練	6
	冷凍機故障対応訓練	6
川崎バックセンター	薬品の漏洩対応訓練	8
仙台バックセンター	薬品の漏洩対応訓練	5
札幌バックセンター	薬品の漏洩対応訓練	4

(株)藤栄	薬品の漏洩対応訓練	4
	汚水の漏洩対応訓練	3

### 【ISO14001認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月	
伊藤ハム(株)	西宮工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 2月
	東京工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 9月
	豊橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 11月
	六甲工場	日本環境認証機構(JACO)	2001年 10月
伊藤ハムデイリー(株)	東北工場	日本環境認証機構(JACO)	2004年 5月
	小樽工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年 4月
	北陸工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
伊藤ハムウエスト(株)	九州工場	日本環境認証機構(JACO)	2002年 2月
サンキョーミート(株)	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2002年 3月	
IHミートパッカー(株)	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2010年 3月	
IHミートソリューション(株)	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2010年 3月	
沖縄フレッシュパック(株)	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2010年 2月	
(株)藤栄	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2010年 2月	
伊藤ハム物流(株)	仙台共配センター	日本品質保証機構(JQA)	2004年 3月
ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)	SGS International Certification Services Pty Ltd.	2001年 1月	

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

### 【ISO22000認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月	
サンキョーミート(株)	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2005年 12月	
IHミートパッカー(株)	宮城ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2006年 3月
	東京ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2007年 2月
	十和田ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2008年 1月
	名古屋ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2008年 3月
IHミートソリューション(株)	川崎バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2007年 12月
	神戸バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2008年 3月
	札幌バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2008年 12月
	九州バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2008年 12月
仙台バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2012年 3月	
沖縄フレッシュパック(株)	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2008年 11月	
(株)藤栄	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	2008年 12月	
筑紫ファクトリー(株)北九州工場	BSIマネジメントシステム・ジャパン	2009年 3月	

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

### 【ISO9001認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	日本海事検定キューエイ(NKCKQA)	1999年 12月
ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)	SGS International Certification Services Pty Ltd.	2001年 1月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

### 【エネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
電力	総量(千kWh)	229,108	224,609	230,856	234,336	219,980
燃料 <sup>※1</sup>	総量(kl)	32,898	31,187	32,554	35,197	33,043
総エネルギー <sup>※2</sup>	総量(GJ)	3,434,742	3,353,091	3,506,074	3,586,493	3,392,940
用水	総量(千m <sup>3</sup> )	5,773	5,710	5,798	5,757	5,661

		伊 藤 ハ ム				
		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
電力	総量(千kWh)	139,460	135,468	138,417	141,582	110,024
燃料 <sup>※1</sup>	総量(kl)	19,202	18,122	19,220	19,941	16,101
総エネルギー <sup>※2</sup>	総量(GJ)	2,059,670	2,005,615	2,117,437	2,187,661	1,635,605
用水	総量(千m <sup>3</sup> )	3,713	3,610	3,530	3,441	2,868

		関 連 会 社				
		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
電力	総量(千kWh)	89,648	89,141	92,439	92,754	109,956
燃料 <sup>※1</sup>	総量(kl)	13,696	13,065	13,334	15,256	16,942
総エネルギー <sup>※2</sup>	総量(GJ)	1,375,072	1,347,476	1,388,637	1,398,832	1,757,335
用水	総量(千m <sup>3</sup> )	2,060	2,100	2,268	2,316	2,793

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲 ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイルー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部  
 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場  
 ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場、ファーム部(2007～2009年度) ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター  
 ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株) ■株藤栄 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所  
 ■株菊水本社工場、サッポロファクトリー ■株大龍 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株)  
 ■アイエイチロジスティクスサービス(株) ■伊藤ハム物流(株)

### 【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場のエネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
電力	総量(千kWh)	158,893	157,136	160,651	162,727	151,503
	生産原単位(kWh/t)	1,197	1,233	1,217	1,213	1,157
燃料 <sup>※1</sup>	総量(kl)	22,840	22,048	23,509	24,347	24,802
	生産原単位(l/t)	172	173	178	182	189
総エネルギー <sup>※2</sup>	総量(GJ)	2,390,720	2,369,538	2,500,989	2,566,852	2,412,887
	生産原単位(GJ/t)	18	19	19	19	18
用水	総量(千m <sup>3</sup> )	4,470	4,407	4,339	4,269	4,184
	生産原単位(m <sup>3</sup> /t)	34	35	33	32	32

		伊 藤 ハ ム				
		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
電力	総量(千kWh)	132,158	129,067	131,226	134,356	103,026
	生産原単位(kWh/t)	1,206	1,257	1,233	1,226	1,113
燃料 <sup>※1</sup>	総量(kl)	18,630	17,609	18,768	19,521	16,303
	生産原単位(l/t)	170	172	176	178	176
総エネルギー <sup>※2</sup>	総量(GJ)	1,967,333	1,924,242	2,030,590	2,101,708	1,589,603
	生産原単位(GJ/t)	18	19	19	19	18
用水	総量(千m <sup>3</sup> )	3,697	3,596	3,515	3,424	2,850
	生産原単位(m <sup>3</sup> /t)	34	35	33	31	31

		関 連 会 社				
		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
電力	総量(千kWh)	26,735	28,069	29,425	28,371	48,477
	生産原単位(kWh/t)	1,155	1,131	1,149	1,154	1,262
燃料 <sup>※1</sup>	総量(kl)	4,210	4,439	4,741	4,827	8,499
	生産原単位(l/t)	182	179	185	196	221
総エネルギー <sup>※2</sup>	総量(GJ)	423,387	445,295	470,399	465,143	823,284
	生産原単位(GJ/t)	18	18	18	17	21
用水	総量(千m <sup>3</sup> )	773	811	824	845	1,334
	生産原単位(m <sup>3</sup> /t)	33	33	32	34	35

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲 ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイルー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場  
 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■株大龍(2007～2009年度)

### 【二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の排出量の推移】

 (単位:t-CO<sub>2</sub>)

	合 計				
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	199,638	194,878	203,002	207,223	195,095
	伊 藤 ハ ム				
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	115,573	112,716	118,760	122,508	93,507
	関 連 会 社				
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	84,065	82,162	84,242	84,715	101,587

対象範囲 ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部  
 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベードリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場  
 ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場、ファーム部(2007~2009年度) ■IHミートパッカー(株)関西西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター  
 ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パッケージセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■橋藤栄 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所  
 ■株式会社水本工場、サッポロファクトリー ■株大龍 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株)  
 ■アイエイチロジスティクスサービス(株) ■伊藤ハム物流(株)

### 【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量の推移】

 (単位:t-CO<sub>2</sub>)

	合 計				
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	135,970	135,115	142,208	145,950	136,898
生産原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /t)	1,024	1,060	1,077	1,088	1,045
	伊 藤 ハ ム				
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	110,106	107,905	113,465	117,472	88,700
生産原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /t)	1,005	1,051	1,067	1,072	958
	関 連 会 社				
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	25,864	27,210	28,743	28,478	48,198
生産原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /t)	1,117	1,096	1,122	1,158	1,255

対象範囲 ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場  
 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベードリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■株大龍(2007~2009年度)

### 【フロンガス (HCFC-22) 排出量の推移】

(単位:kg)

	合 計				
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
HCFC-22	4,091	3,328	3,911	3,695	5,133

対象範囲 ■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場  
 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベードリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2007~2009年度)

### 【グリーン購入の推移】

対象品目	グリーン購入の割合 (%)						
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度		
事務用品 (金額ベース)	文具類	筆記具、ファイルなど	95.2	95.4	96.4	96.8	97.5
	紙類	コピー用紙、コンピューター用紙など	93.9	98.8	99.2	99.6	99.5
	合計		94.2	98.1	98.5	98.9	97.5
事務機器 (数量ベース)	OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	オフィス家具類	事務用机、椅子、OAテーブルなど	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
その他	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	71.2	76.9	78.8	88.4	84.2
	制服類	作業着など	98.2	96.8	98.6	98.6	98.2

対象範囲 ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場  
 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベードリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■株大龍(2009~2010年度)

# 環境保全活動の沿革

年月	弊社の主な取り組み内容
1965年	・廃水処理設備の導入開始
1973年	・都市ガス燃料ボイラーの導入開始
1991年	・生産各工場に「環境管理室」を設置
1993年	・生産事業本部に「環境安全担当」を設置
1994年	・大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減
1998年	・営業車輛に天然ガス(CNG)自動車の導入開始(業界初) ・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 ・全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置 ・「環境委員会・生産部会」「工場環境会議」を設置
1999年	・「環境基本方針」を制定 ・東京工場が廃棄物計量システムを初めて導入
2000年	・西宮工場、東京工場、豊橋工場がISO14001を認証取得 ・環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始 ・環境報告書を初めて発行 ・ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設
2001年	・ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得 ・六甲工場がISO14001を認証取得 ・中期経営計画において環境活動3ヵ年計画を策定 ・グリーン購入基本方針制定 ・生産工場を対象に環境会計を導入 ・西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼働
2002年	・九州工場、サンキューミート(株)有明ミート工場・霧島ミート工場がISO14001を認証取得 ・環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置 ・コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布 ・日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞 ・社会貢献活動理念と活動方針を策定
2003年	・「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始 ・「クリーンアップin甲子園浜」(初めての自主企画)を実施 ・こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート
2004年	・伊藤ハム物流(株)、伊藤ハム Dairy(株)東北工場がISO14001認証取得 ・全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状を受賞 ・平木小学校(西宮市)において環境学習「出前授業」を初めて実施
2005年	・自然保護をテーマにした「食とeco」わくわく探検隊」を初めて実施(春・秋)
2006年	・伊藤ハム Dairy(株)小樽工場がISO14001を認証取得 ・社会貢献活動「環境学習都市にのみやパートナーシッププログラム事業」(「食とeco」わくわく探検隊」と「クリーンアップin甲子園浜」の2つのイベント)に対し西宮市長より感謝状を受賞 ・伊藤ハム Dairy(株)北陸工場がISO14001を認証取得 ・「ハム工場を学ぼう」を初めて実施
2008年	・「環境委員会 食肉生産部会」を設置 ・食育イベント「スマイルキャラバン」を実施
2009年	・西宮工場で「太陽光発電設備」が稼働
2010年	・(株)藤栄、沖縄フレッシュパック(株)、IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)がISO14001を認証取得





社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

---

伊藤ハム株式会社  
CSR本部コンプライアンス推進室  
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号  
T E L : (0798) 65-5286  
F A X : (0798) 66-3391  
U R L : <http://www.itoham.co.jp>  
E-mail : [eco@itoham.co.jp](mailto:eco@itoham.co.jp)

発行 2012年9月

次回発行予定 2013年9月